

## 問題提起

# 創造的な学習活動の在り方

—教科における郷土素材の活用を通して—



地域の人材を活用した楽しい郷土料理の実習

### 1 はじめに

平成14年度から、小学校及び中学校ではいよいよ新教育課程が全面実施されることになる。各学校では、「ゆとり」の中で子どもたちに[生きる力]をはぐくむことをめざし、新教育課程の編成に全校体制で取り組んでいることだろう。

新学習指導要領では教育内容の厳選が図られ、学校においては、子どもたちがじっくりと学習に取り組みながら学ぶことの楽しさや成就感を味わえるようにするとともに、基礎・基本を確実に身に付けさせていくことが求められている。そのためには、学校や地域の特色を生かした学習指導に努め、子どもたちが主体的に学習に取り組む、粘り強く課題解決に取り組んだり、身に付けた能力を伸び伸びと発揮したりすることができるように創造的な学習活動を展開していく必要がある。

そこで、ここでは、子どもたちに基礎・基本を確実に身に付けさせることをめざし、郷土素材の活用を通して創造的な学習活動をどのように展開していけばよいかについて、問題提起を行う。



(2) 郷土素材を活用する意義

郷土素材を活用する意義としては、次のようなことが挙げられる。

学習を進める際の基盤となるものが既に準備されており、豊かに学ぶことができる。

- 郷土は、児童生徒の生活の場所である。したがって、郷土素材を教材として取り上げることによって、児童生徒は日々の生活を実感しながら豊かな学習情報を基に学習することができる。
- 児童生徒にとって身近な素材であるので、興味・関心を高めることができ、学習に対するレディネスをそろえやすい。
- 郷土素材に触れた経験を通して、その事象に関する多くの情報を得ているので、問題解決が主体的に行われやすい。

見学、調査などの体験的な学習や問題解決的な学習が可能となり、創造的に活動しながら、基礎・基本を確実に身に付けることができる。

- 直接そのものを見たり、そのものに触れたりするなど、体験を通じた学習が展開でき、実感したり、納得したりして基礎・基本を学び取ることができる。
- 身近な素材であるので、必要に応じて繰り返し調べることができる。したがって、自分なりの考え方や方法を修正しながら、主体的に問題を解決し、基礎・基本を確実に身に付けることができる。
- 学習したことを自分のものとして、すぐにとらえることができる。そのため、今まで何気なく見過ごしていた自分の周りの事象に目を向けるようになり、問題意識をもって事象を見ていこうとする態度が育つ。

郷土理解を深めるとともに、地域の一員としての自覚を高めることができる。

- 郷土の自然、歴史、文化、産業などに関する理解を深めるとともに、郷土のよさを実感し郷土を愛する心情を高めることができる。
- 地域の人々の知恵や思いに触れたり、地域とのかかわりを深めたりすることを通して、地域の一員としての自覚を高めることができる。
- 学習の成果を基に主体的に地域にかかわりながら、地域をよりよくしていこうとする態度が育つ。

### 3 郷土素材の教材化と活用

郷土の素材としては、郷土の遺跡、産業、自然、あるいは伝統芸能、伝統文化、地域の人々など「ひと」、「もの」、「こと」などが考えられる。

また、一般的に教材として価値ある素材としては、次のような要件を満たす必要があると考えられる。

- ① 身近で親しみやすいもの
- ② 安価で大量にあり、入手しやすいもの
- ③ 繰り返し使えるもの
- ④ 発達段階に合い、単元の目標を達成できるもの
- ⑤ 単元の学習内容を内包しているもの
- ⑥ 児童生徒の興味・関心を高められるもの
- ⑦ 自由に操作できるもの
- ⑧ 安全に操作活動ができるもの
- ⑨ 規則性や仕組みが見いだされやすく、分かる喜びの味わえるもの
- ⑩ 学んだことを生活や次の学習などに生かすことができるもの



郷土素材は、上記の①、②、③、⑥、⑦、⑩の要件を自ら満たすものであり、郷土教材を活用することで、児童・生徒の主体的な学習が期待できる。

さらに、郷土素材の教材化という観点から、次の要件を満たす素材を教材化することが望ましいと考える。

- ⑪ 学習したことが、家庭での話題となるもの
- ⑫ 実生活にとって切実感のあるもの
- ⑬ 地域の人々との交流が期待できるもの

#### (1) 郷土素材の教材化のポイント

素材の教材化に当たっては、何のために（目的・目標）、どのような児童・生徒に（実態）、どのような方法で（手順）、いつ（適時性）与えるかについて十分検討し、構造化していくことが必要である。つまり、教科の目標を適切に、効果的に達成できる素材を選び出し、教材化を図る必要がある。

そこで、素材の教材化の手順としては以下のようなことが考えられる。

- ① 単元のねらいや内容を明確にする。
- ② 郷土素材に対する経験やレディネスなどの児童生徒の実態を明確にとらえる。
- ③ 十分な事前調査、素材についての研究を行い、単元のねらいや内容を内包する素材を探す。
- ④ 児童生徒の発達特性を考慮し、より効果的に基礎的・基本的事項を学びとることができるように、郷土素材の教材化を図る。その際、学習に不必要な内容が入らないように配慮する必要がある。
- ⑤ 学習目標・内容に即して、教材を指導計画等に適切に配列する。

また、学習を展開する際の留意点として、下記の点に留意する必要がある。

- ア 学習方法，学習形態等工夫して綿密な学習計画を作成する。
- イ 児童生徒の学習負担に十分配慮する。
- ウ 学習活動中及びその前後の安全が十分に確保されるよう，安全指導及び安全管理に努める。

## (2) 郷土素材のポイント

郷土素材の活用にあたっては、教師は、児童生徒の学習意欲を喚起するように教材を提示するとともに、児童生徒の学習活動をよく観察して、思考活動や作業等がスムーズにできるように配慮することが大切である。

そこで、郷土素材の活用のポイントとして、次のようなことが挙げられる。



地域のおじさんと一緒に

### ア 「ひと」としての郷土素材の場合

(ア) 内容，役割，交流の場等について，十分な打合せを行う。

- ・ 単元のねらい等を的確に伝え，児童生徒に話してほしいことなど明らかにしておく。
- ・ 学習に必要なことまで多くを語ることや一方的に話すことのないように配慮を促す。
- ・ コーディネーター役としての教師の役割について理解を得る。

- (イ) 学習終了後も交流を進め，学習の深化を図るようにする。
- (ウ) 学習をきっかけに，地域の人々との交流を深めるように働き掛ける。
- (エ) 人権やプライバシーに十分配慮する。
- (オ) 現存する人を活用する場合は評価が定まった人が望ましい。

### イ 「もの」としての郷土素材の場合

(ア) 教師が，事前に十分調査を行い，どの部分を，どのように扱うと学習効果が高まるか明らかにする。

(イ) 教師が事前に調査を行う際には，カメラ等を利用してデータを保存するように努める。

(ウ) 学習が安全に，そして効果的に進められるように，危険箇所の点検を行うとともに学習時の安全への配慮を行う。また，安全指導の内容についても事前にはっきりさせておく。



地域の方々から学んだ米作り

ウ 「こと」としての郷土素材の場合

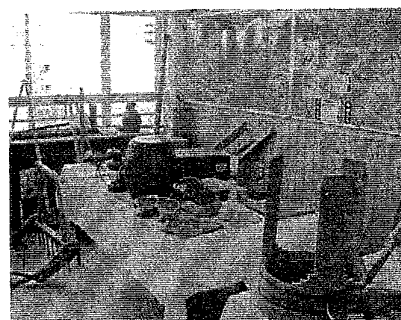
- (ア) 伝統文化などは、直接触れることが望ましいので、期日等を明確にしておく。
- (イ) 直接体験できないことも多いので、いろいろな方法で記録に残し、いつでも活用できるようにする。
- (ウ) 事実や史実を的確に伝える。
- (エ) 現在の自分たちの郷土や生活、文化、産業との関連及び日本や外国とのかかわりについても考えさせる。
- (オ) その「こと」にかかわった人のことを取り上げ、「こと」と人々の営みや願いを考えさせる。



郷土の伝統芸能の伝承

(3) 郷土素材を生かす環境づくり

・ 郷土教材を生かした学習活動を展開するために、学習に役立つ資料（例えば、統計資料、写真、図書・文献、古老や地域の人々の話など）を集めたり、あるいは、学習目標、学習内容、学習方法・形態を工夫し、指導計画を作成するなどの環境づくりが重要である。



郷土室の様子

また、その方法として、郷土素材のマルチメディア化を図ったり、郷土素材の展示室、展示コーナーを設置したり、郷土素材マップを作成したりすることなどが考えられる。

(4) 各教科における郷土素材の例


各教科においては、次のような郷土素材の活用が考えられる。

国語	鹿児島県の民話や方言、言い伝えなど
社会	地域や鹿児島県の歴史、地理、文化、産業、交通など
算数・数学	校庭の面積、鹿児島県の人口密度、鹿児島県の統計グラフなど
理科	身の回りの動植物、自然災害、火山など
生活	地域での具体的な活動や体験、地域の人や社会、自然とのかかわりなど
音楽	鹿児島県のわらべ歌、鹿児島県の民謡、薩摩琵琶、蛇皮線など
図画工作、美術	地域や郷土の風景、大島紬のデザイン、鹿児島県のポスターなど
家庭、技術・家庭	郷土料理、地域の素材を生かしたものづくり（屋久杉、竹など）
体育	伝承遊び、郷土芸能による表現活動、カヌー等の自然遊びなど
外国語	英語による鹿児島県の紹介

#### 4 郷土素材を活用した授業の構想

この項では、今まで述べてきた郷土素材の活用を通じた創造的な学習活動について、教科の構想例をいくつか紹介する。

生活科 小学校第2学年	郷土の祭りに参加する人々の思いや願いを参考にして、自分たちの祭りの企画・運営を工夫する活動
----------------	---

単元	「わっしょいわっしょい」	
活用する郷土素材	○ 祇園祭り	
基礎的・基本的事項	○ 身の回りの自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして遊びを工夫し、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。	
教材化の意図	私たちの郷土には、神社の六月灯や祇園祭りなどの大きな祭りがあり、人と人とのかかわりが希薄になりがちな地域を活性化する役目も果たしている。祇園祭りの様子を映したVTRを活用し、祭りに参加する人々の思いや願いに気付かせるとともに、自分たちの祭りを自分たちで楽しみながら企画・運営して行うことを通して、協力や教え合いなどを学ばせたい。	
指導上の配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ VTRを使って祇園祭りの様子を提示し、自分たちの身近な祭りについての関心を高めたり、音楽等を使って雰囲気づくりをしたりする。</li> <li>○ 祭りに参加して楽しかったことや面白かったことなどを出し合うようにすることで、一人一人が祭りをイメージできるようにし、自分たちの祭りをしてみたいという意欲が高まるようにする。また、子どもたちの発表を称賛し、祭りへの思いや願いが高まるようにする。</li> <li>○ 祭りの中で人とかかわって楽しかった経験を話し合うことで、自分たちの祭りでも、いろいろな人とかかわりを考えられるようにする。</li> </ul>	
創造的な学習活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 祭りについて、参加した経験や知っていることを発表する。</li> <li>2 自分たちの祭りについて、どんなことをしたいか話し合う。</li> <li>3 友達と協力して自分たちの祭りに必要な物や飾りを作り、工夫して楽しい祭りをする。</li> </ul>	
		私たちの祇園祭り

体 育 科 小学校第2学年	伝承遊びを活用し、仲間と楽しく運動することを通して、基本的な動きや基礎的な体力・運動能力を身に付ける活動
------------------	--

単 元  
活用する郷土  
素材

基本の運動「楽しく遊ぼう！鹿児島に伝わる遊び」

- 鹿児島に伝わる伝承遊び  
・にくだん ・ひょうたんおに ・ひまわりおに ・でんでん虫 など

基礎的・基本  
的事項

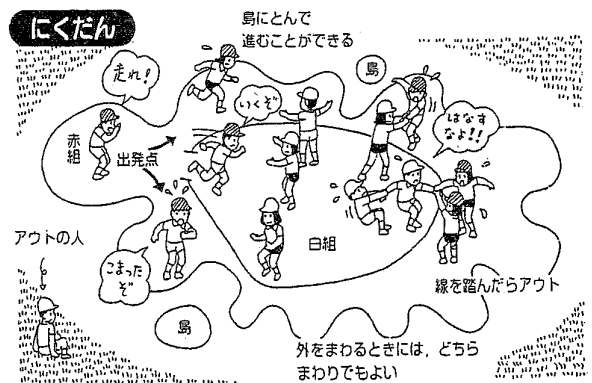
- 競争やいろいろな課題への取組などを楽しく行うとともに、体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きができるようにする。
- 順番や決まりを守って仲良く運動をしたり、運動をする場所や用具などの安全に気を付けたりすることができるようにする。

教材化の意図

伝承遊びは、みんなが手軽に楽しく取り組み、活動欲求を満足させるとともに、パターン化された動きや運動技術ではなく、走る、跳ぶ、身をかかわすなど、身体の基本的な動きを遊びの中で自然に身に付けることができる。また、きまりや作戦を仲間と協力して考えたり、教え合ったりするなど仲間とのかかわり合いが多く見られる。運動遊びが減少している中、伝承遊びを自由時間や放課後等へも広げることが期待できる。

指導上の配慮  
事項

- 運動遊びの経験が少ない子どもや運動に興味・関心をもっていない子どもも運動に親しめるよう、場づくりやグループ編成の工夫を行う。
- 学習が進むにしたがって、作戦等の工夫や子ども同士のかかわり合いが深まるよう、また、体力の向上につながるよう配慮する。



鹿児島県保健体育研究会編著「鹿児島県につたわるこどもの遊び」から引用

- 自由時間等にも取り入れて楽しむことができるように働き掛ける。

創造的な学習  
活動の展開

- 1 鹿児島に伝わる伝承遊びについて、家族の人に聞いてくる。
- 2 やってみたい遊びについてグループで話し合い、いくつか実践する。
- 3 一番楽しかった遊びを選び、更に工夫を加えたりして繰り返し行う。
- 4 自分たちで工夫した遊びを、それぞれのグループが実践し、発表する。
- 5 他のグループが発表したものを実践してみる。



社 会 科  
小学校第4学年

観察や調査・見学などの体験的な学習活動により、伝統的な工業の盛んな地域の人々の生活の様子等を調べる活動

単 元

「県内の特色あるまちをたずねる」

活用する郷土  
素材  
基礎的・基本  
的事項

○ 屋久杉，営林署や屋久杉加工場の人々

○ 県内の特色ある産業（伝統的な工業などの地場産業）が見られる地域を取り上げ，そこで産業に携わったり生活したりしている人々の生活の様子を具体的に調べ，自分たちの住んでいる県の概要や特色をとらえることができる。

教材化の意図

「世界自然遺産」の島屋久島は屋久杉の産地として有名である。その屋久杉を使った屋久杉細工は，屋久島を代表する伝統工芸である。この郷土素材は，児童が観察や調査・見学，製作などの活動が行え，また関係者への聞き取り調査等を行うことによって，歴史的な背景や屋久杉細工を守り継承している人々の努力や工夫などに気付かせることができる。

指導上の配慮  
事項

- 屋久杉細工の歴史や現況について，郷土資料館，図書館やインターネット等で調べ，事前に質問事項等を準備させる。
- 屋久杉加工に携わっている人々の思いや願いを調べ，伝統工芸のよさを理解させる。

創造的な学習  
活動の展開

- 1 屋久杉加工場を見学し，作業工程について調べたり，どのような製品に加工されるかを図や表にまとめたりする。
- 2 屋久杉の伐採，原料の土埋木の供給状況などを営林署や加工場の人々に対して，グループで聞き取り調査を行う。
- 3 後継者の育成や伝統技術を今後どのように継承していくかについて調べる。
- 4 屋久杉の加工作業を実際に体験する。
- 5 営林署や加工場の代表者を教室に招き，意見交換をする。
- 6 体験したことや調べたことをまとめ，グループで発表し合う。



屋久杉加工場での体験活動



理 科 小学校第6学年	大正噴火前後の桜島の地形図を使って、火山活動が地形を変 えることを調べる活動
-------------------	---

単 元 「火山の噴火」

活用する郷土  
素材

- 桜島の地形図（明治35年測量と現在の地形図）
- 桜島の写真（元塩屋ヶ淵港の入り江、各溶岩の植生、黒神の埋没鳥居、鳥島埋没の地、元有村集落付近など）

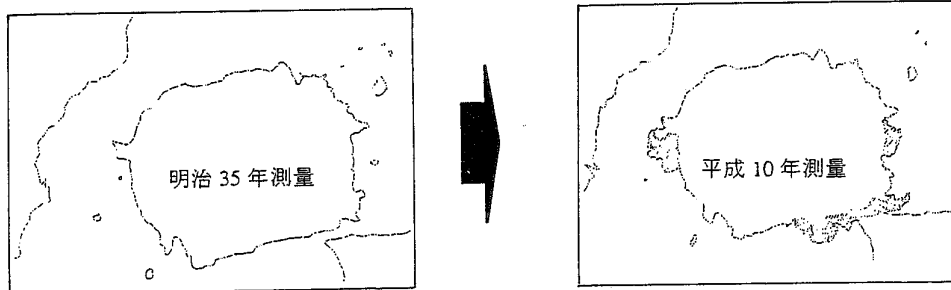
基礎的・基本  
的事項

- 地層は流れる水の働きや火山の噴火によってできること。
- 土地は、火山の噴火によって変化すること。

教材化の意図

桜島は、有史以来、幾たびかの噴火を繰り返してきた。特に、大正3年の噴火では、流れ出た溶岩で瀬戸海峡がふさがれ、大隅半島と陸続きになるなど、大きな土地の変化が起きた。そのことは、噴火前の国土地理院発行の地形図により調べることができる。

また、流れ出た溶岩の古さで植生が変化してきており、桜島の溶岩の様子や、その上の植生の写真を活用することで噴火の年代を予想することができる。



桜島の地形図

指導上の配慮  
事項

- 土地が変化していることをとらえさせるために、それぞれの地形図の輪郭をなぞり、重ね合わせて比べさせる。
- 植生の違いをとらえさせるために、現地調査を行ったり、写真資料を基に調べさせたりする。

創造的な学習  
活動の展開

- 1 大正噴火前の地形図と現在の地形図を比べる。
- 2 地形が変わったわけを話し合う。
- 3 溶岩の年代を植生から予想した後、文献で確かめる。
- 4 桜島の噴火によって溶岩が流れ出し地形を変えたことをまとめる。

音楽科（選択） 中学校第2学年	郷土の民謡やわらべ歌を活用し，独特な曲調と歌詞のもつ雰 囲気を生かして表現を工夫する活動
--------------------	---

題材  
活用する郷土  
素材

「合唱の喜びを味わおう」

- 鹿児島わらべ歌「おいどんがちんけとき」（混声四部合唱）
- 奄美地方わらべ歌「徳之島の子守歌」（女声三部合唱）
- 奄美民謡「行きゆんにゃ加那」（女声三部合唱）

基礎的・基本  
的事項

- 歌詞の内容や曲想を味わい，曲にふさわしい歌唱表現を工夫すること。
- 声部の役割を生かし，全体の響きに調和させて合唱すること。

教材化の意図

私たちの郷土には，永年歌い継がれてきた多くの民謡やわらべ歌が現存しており，芸術的価値の高い音楽も多い。ここでは，本題材のねらいに沿って，旋律が美しく生徒の実態に合った編曲が施され，情景や歌の気持ちを生かした表現に効果的な郷土の民謡やわらべ歌を教材化し，必修の音楽で培った能力を更に伸ばし，合唱の美しさを追求していく発展的な学習として実践することにした。

指導上の配慮  
事項

- 本題材は，鹿児島県のわらべ歌と民謡の3曲によって構成するが，選択教科「音楽」を履修する生徒は女子が圧倒的に多いため，女子には混声と女声を選択して取り組めるようにする。
- 情景画や歌詞カードにより曲のイメージをとらえやすくしたり，方言を大切にしたりした表現により曲趣を生かせるようにしたりする。また，歌詞の意味を理解させ，発音にも気を付けて表現できるようにする。

創造的な学習  
活動の展開

〈「混声四部合唱グループ」の例〉

- 1 「おいどんがちんけとき」を聴き，曲の感じや方言，情景等を話し合う。
- 2 主旋律を斉唱する。
- 3 パートごとに分かれて練習する。
- 4 全体で合唱し，音程やリズム，ハーモニーなどを確認する。
- 5 曲想を生かした歌い方を練習し，より豊かな表現に高める。



わらべ歌の情感を生かして

技術・家庭科(選択) 中学校第3学年	地域の食材を使って、問題解決的な学習を行いながら、新しい郷土料理を作る活動
-----------------------	---------------------------------------

題 材 「地域の食材を使って、新しい郷土料理を作ろう。」

活用する郷土素材 ○ いも、かぼちゃ、ピーナツ、とびうお等の地域の食材

基礎的・基本的事項 ○ 自分の食生活に関心を持ち、地域の食材を生かした調理の工夫ができること。

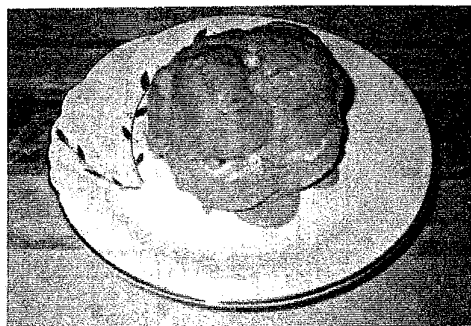
教材化の意図 地域の食材は、安価で入手しやすいので、試行錯誤しながら何度でも試作することができる。また、身近でよく知っているので、生徒の興味・関心を高めることができるとともに、家庭での実践につなげることができる。

指導上の配慮事項

- 食材や作り方などについて調べ、試作をしていく中で、新しい料理を作り出すためには、調理の基礎的な知識・技術が必要であることに気付き、それらが身に付くようにする。  
また、書籍、インターネットによる情報収集や試作などを通して、問題解決的な学習方法が身に付くようにする。
- 創作した郷土料理をホームページで紹介したり、料理コンクールに応募したりすることを目標にし、学習の意欲が持続するようにする。また、実習を繰り返し行う中で、自分の技術への自信とともに、新たな目標をもつようにする。
- 新しい郷土料理についての栄養を示した料理カードを作るなど、学習が創造的に発展するようにする。

創造的な学習活動の展開

- 1 地域の食材について調べる。
- 2 自分が追求する食材を決定し、新しい郷土料理作りについての計画を立てる。
- 3 おいしく、独創性あふれる郷土料理を作る。
- 4 創作した郷土料理を友達、専門家（調理師、菓子職人等）に試食してもらい、新たな課題を追求する。
- 5 創作した郷土料理を授業やホームページで発表する。



紫いもクリームを使った「おごじょシュー」

外国語（英語） 高等学校第2学年	郷土の風土や文化を紹介するスキット（寸劇）の創作活動を通して、主語＋動詞＋目的語（if節）の文型などを使って話す活動
---------------------	--

題材 Lesson 10 Trackers of the Outback English Now II (Kairyudo)

活用する郷土素材

- 徳之島の風土や文化  
さとうきび、テッポウユリ、蝶、サンゴ礁、黒糖焼酎、闘牛 など

基礎的・基本的事項


- 身近な題材を基にしたスキットの創作活動を通して、主語＋動詞＋目的語（if節）の文型や、be動詞＋形容詞（gladなど）＋that節、不定詞の否定〈not to＋動詞の原形〉の用法を使って話すこと。

教材化の意図

英語のねらいの一つに、自分の考えなどを英語で表現し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることがある。本題材では、TVのニュースキャスターが徳之島の風土や文化をレポートするというスキットを創作し発表する活動が展開されている。本題材で郷土素材を取り上げることによって、生徒にとって切実感のあるcontext（言語の使用場面）が生まれ、郷土のよさを英語で紹介することの喜びを味わいながら、教科書で学習した基礎的・基本的事項を確かに身に付けることができる。

指導上の配慮事項

- 自分たちの文化を守り、伝えていこうとするオーストラリアの先住民アボリジニの人々を教科書や写真で紹介し、自らも徳之島の風土や文化を見直し調べていこうとする気持ちをもたせる。
- ALTとJTEがモデルスキットを演じたり、ストーリーや配役を話し合うためのワークシートを配布したりして、生徒が徳之島の風土・文化について調べ、スキットを自ら創作できるようにする。
- リズムに乗って発音する練習法（ジャズ・チャンツ）を取り入れながらせりふの練習をすることで、英語の自然な発音やリズムに慣れるとともに、基本文の運用力を身に付けることができるようにする。

$\frac{4}{4}$  

There are big waves and little waves. green waves and blue.

ジャズ・チャンツの例

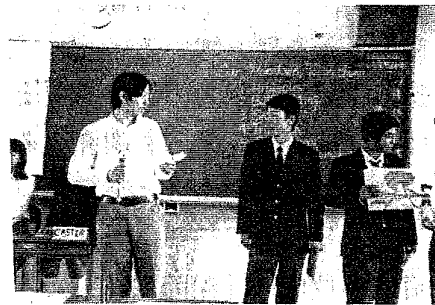
創造的な学習  
活動の展開

- 1 教科書を基にして、ジャズ・チャンツによる発音練習や target sentence を利用した対話練習などを行い、基礎的・基本的事項を理解する。
- 2 教科書でアボリジニの人々の思いを知り、自分たちも徳之島の風土や文化について調べる。
- 3 徳之島の風土や文化を紹介するスキットをワークシートを基にグループで創作する。そして、せりふの分担について話し合ったり、ジャズ・チャンツによるせりふの練習をしたりする。
- 4 徳之島の風土や文化を紹介するスキットをグループごとに発表する。
- 5 発表会のVTRを鑑賞し、感想や意見を発表する。(1時間)

( 年 組 )

グループ名	
メンバー	
テーマ	
ストーリー	Host
	配 Caster A
	Caster B
	役 Reporter
	インタビューされる人

ワークシートの例



スキットの発表の様子

5 おわりに

これまで述べてきたように、各教科の指導において、身近な郷土素材を教材化し、それを活用して創造的な学習活動を展開していくことは、児童生徒に基礎・基本を身に付けさせるのに非常に有効である。

新世紀カリキュラム審議会は、「鹿児島らしい教育」の実現のために、郷土学習は欠かせない重要な柱であると述べている。郷土には、教材としての価値を有する多くの素材がある。それらを教材化するためには、まず、教師自身が郷土にどんな価値ある素材があるかを知ることである。教師が郷土をよく知ることが必要になる。その上で、どのように活用していけばよいか、指導法を工夫していただきたい。各学校での積極的な取組を期待したい。

(後藤千和子, 内山恵一, 尾場瀬優一, 澤田元, 濱田弥生, 富吉尚史, 牧浩寿, 山下守)